

報道関係各位

平和島自動運転協議会  
株式会社日本経済研究所  
株式会社東京流通センター

**TRC 東京流通センター拠点「平和島自動運転協議会」第六次参画企業・団体決定**

～平和島から自動運転車両の社会実装へ、産業発展・社会課題解決に寄与～

株式会社東京流通センター（以下、TRC）を拠点とする「平和島自動運転協議会（以下、本協議会）」に第六次として新たに14団体が加わり計50団体（内16社はTRC物流施設・オフィスを利用中）となることをお知らせします。

- 株式会社ダイフク（本社：大阪市西淀川区 代表取締役社長：寺井友章）
- 東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長：喜勢陽一）
- 株式会社ジェイアール東日本物流（本社：東京都墨田区 代表取締役社長：野口忍）
- ユアスタンド株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：浦伸行）
- 株式会社みつばモビリティ（本社：東京都港区 社長執行役員：浜地康太）
- 株式会社 LexxPluss（本社：東京都大田区 ファウンダー兼 CEO：阿蘊将也）
- 大日本印刷株式会社（本社：東京都新宿区 代表取締役社長：北島義斉）
- NEOLIX APPLIED AI PTE. LTD.（本社：シンガポール共和国 CEO：Enyuan Yu）
- FastLabel 株式会社（本社：東京都新宿区 代表取締役社長：鈴木健史）
- ロジスネクストジャパン株式会社（本社：京都府長岡京市 代表取締役社長：大沼俊也）
- 苫小牧埠頭株式会社（本社：北海道苫小牧市 代表取締役社長：海津尚夫）
- 慶應義塾大学 SFC 研究所（拠点：神奈川県藤沢市 所長：仰木裕嗣）
- 一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス（拠点：東京都目黒区 理事長：天野肇）
- 鴻池運輸株式会社（本社：大阪市中央区 代表取締役会長兼社長執行役員：鴻池忠彦）

**He<sup>AD</sup>Light Field**  
Heiwajima Autonomous Driving conference



本協議会は、TRC 構内を実証フィールドとして、自動運転技術の社会実装を目指す企業・行政・研究機関が連携するプラットフォームです。TRC 構内では自動運転技術に関する実証実験を随時実施しており、会員同士が協調領域において連携しながらオープン・イノベーションを推進することに加え、実証実験の場を活用した個社毎の技術開発を通じて、自動運転業界の発展と物流業界が抱える社会課題の解決を目指しています。

今般、TRC に入居している鴻池運輸株式会社、株式会社ジェイアール東日本物流、株式会社 LexxPlus、ロジスネクストジャパン株式会社含め、物流システム企業、モビリティ運行管理事業者、鉄道事業者、研究機関等多様な団体が参画することとなりました。引き続き、TRC 建物内の自動運転走行 WG と循環型ラストマイル配送 WG、フィジカル AI を活用した荷役 WG、及び会員・複数会員による競争領域における研究開発を通じて、各物流セクションでのシームレスなオペレーションの確立を目指し、「真の物流効率化」のためのエコシステム構築に向け、引き続き会員皆様と連携して挑戦して参ります。

## ■新規参画会員コメント

---

### 株式会社ダイフク

当社は、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」を通じて、心豊かに生きられる社会の実現を目指しております。このたび、トラックの荷積み・荷降ろしを自動化するドライブスルー型トラックステーション「TRTS（トータス）」を活用した実証実験に参画いたします。物流現場における作業の効率化・省人化を推進し、労働力不足の解消や作業者の負担軽減、安全性の向上に貢献するとともに、関係各社様と課題や目標を共有しながら、自動運転の発展と社会課題の解決に寄与できるよう努めてまいります。

---

### 東日本旅客鉄道株式会社

当社グループは、TAKANAWA GATEWAY CITY において「100 年先の心豊かな暮らしに向けたまちづくり」を推進する中で、次世代型物流として、まちへの集約物流拠点を平和島に設け、FC トラックによる配送を行っています。本協議会を通じて自動運転実装を推進することで、物流業界が抱える社会課題の解決と共に、人と地球に優しい未来の暮らしづくりへ挑戦します。

---

### 株式会社ジェイアール東日本物流

当社は駅に向けた輸配送を行っておりますが、平和島 TC での集約物流などをはじめとした輸配送の高効率化を推進し、物流に関わる社会課題の解決に取り組んでまいりました。協議会の皆さまと連携し、一般道での自動運転配送の実現に向けた運用設計や実証実験に協力してまいります。

---

### ユアスタンド株式会社

当社は、物流向け EV 充電インフラの構築・運用で培った知見を活かし、物流における自動運転の社会実装に取り組んでまいります。最適な車両の導入と一般道での運用を見据えたオペレーションの構築を通じて、実用性の高い自動運転サービスの実現を目指します。関係各所や行政と連携・調整しながら中長期的に取り組みを推進し、持続可能な物流インフラの構築を通じて、日本の物流課題の解決に貢献してまいります。

---

### 株式会社みつばモビリティ

当社は、自動運転車両の短期実証実験・長期定常運行時のドライバーや遠隔監視業務を請負っています。その他、自治体ライドシェアやオンデマンド型の運行方式、グリーンスローモビリティの運行など次世代型の移動サービスを積極的に取り入れ「世の中のあらゆるモビリティ課題を解決する」事を目指し事業展開しております。

---

### 株式会社 LexxPlus

当社では、かご台車・6 輪台車の搬送自動化ソリューションや、モバイルマニピュレータ（自律移動するロボットアーム）を通じて、物流現場や生産現場へ新しい労働力の提供を行なっています。本協議会の活動を通じて、持続可能な物流現場の実現に貢献してまいります。

---

---

## 大日本印刷株式会社（DNP）

当社は、フィリピンでの物流領域におけるモビリティサービスの開発や、車載ソフトウェア・自動運転システム分野での事業開発に取り組んでいます。また、国内の製造拠点からさまざまな製品を出荷する物流基盤とノウハウを有しています。本協議会の参画企業・団体との連携のもと、自動運転と連動した物流オペレーションの高度化に取り組み、社会課題の解決に貢献していきます。

---

## NEOLIX APPLIED AI PTE. LTD.

当社は、長年にわたり無人配送技術の開発と実用化に取り組み、世界 20 か国で累計走行距離 1.6 億キロ超の実績を有する物流ソリューション企業です。実証から本格運用への移行を完了し、安全性と実用性は既に確立されています。平和島自動運転協議会への参画を通じ、TRC の持つ先進的な実証環境を最大限に活かしながら、日本各地の自治体や企業の皆さまとの連携を深めてまいります。ドライバー不足や物流効率化といった社会課題の解決に貢献し、誰もが安心して暮らせる持続可能な物流インフラの実現を目指してまいります。

---

## FastLabel 株式会社

当社は、自動運転開発に不可欠な学習データの収集・アノテーション・データパイプライン構築を一気通貫で支援しています。平和島自動運転協議会への参画を通じ、参画企業の皆様と連携しながら、信頼できる自動運転技術をデータから下支えし、物流・モビリティ領域のさらなる発展に取り組んでまいります。

---

## ロジスネクストジャパン株式会社

高品質な物流の要求、配送の小口化・細分化・迅速化、物流量の増加など、物流を取り巻く環境は大きく変化しており、作業効率や作業環境の改善、人手不足への対応が求められています。1971 年に世界初の無人フォークリフト（AGF）を開発した当社は、これまで工場や倉庫内物流を中心に無人化ニーズに最新技術で応えてきました。今後、広い範囲で「人と機械の共存」を実現させるべく、物流の自動化に向けた取り組みを進めていきます。

---

## 苫小牧埠頭株式会社

当社は、北海道苫小牧港の開港に先立ち倉庫、港湾運送事業を担う目的として設立された総合物流企業となります。地域を知る物流のプロフェッショナルとして、地域や社会の発展と豊かな暮らしの実現への貢献を目指しており、ドライバー不足や労働環境改善が課題となる中、本協議会の成果を地方物流に展開し、自動運転技術の社会実装と物流の解決に貢献してまいりたいと考えております。

---

## 慶應義塾大学 SFC 研究所

慶應義塾大学 SFC 研究所は、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部の附属研究所として、1996 年 7 月の設立以来、21 世紀の先端的研究を牽引してきました。諸科学の協調を重視し、国内外の多様な研究機関・産業界との双方向連携を通じて先端研究を推進し、社会の発展に寄与することを使命としています。このたびは、自動運転分野の研究のご縁により参画の機会を賜りました。SFC 研究所には多様な専門領域の研究者が在籍しておりますので、参画機関の皆様と幅広い形で連携し、新たな価値創出に貢献できることを期待しております。

---

## 一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス

一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンスは、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第 2 期「自動運転(システムとサービスの拡張)」の活動成果を継承し『革新的な移動に関する技術開発や社会実装を起動する会員主導の団体』を目指して設立されました。幅広い学術ネットワークを基盤として、大学・行政・産業界の連携を促進し、新たなモビリティ社会の実現に向けた政策・施策の提言、国際連携、人材育成、広報活動等を推進しています。とりわけ、自動運転技術の公共交通サービスへの導入などを通じたビジネス・イノベーションの創出に向け、制度設計や規制緩和を含む分野横断的な政策検討および社会実装の取組を支援しています。

---

## 鴻池運輸株式会社

当社は、1880 年の創業以来、物流サービスに留まらず、鉄鋼や食品などの製造業界向けや、医療や空港などのサービス業界向けの請負サービスを展開しています。「『人』と『絆』を大切に、社会の基盤を革新し、新たな価値を創造します」の企業理念のもと、今回の本協議会参加を通じ、各種の社会課題の解決に貢献できるよう取り組みを進めてまいります。

■各社サービス・ソリューション イメージ

【NEOLIX APPLIED AI】



【ロジスネクストジャパン】



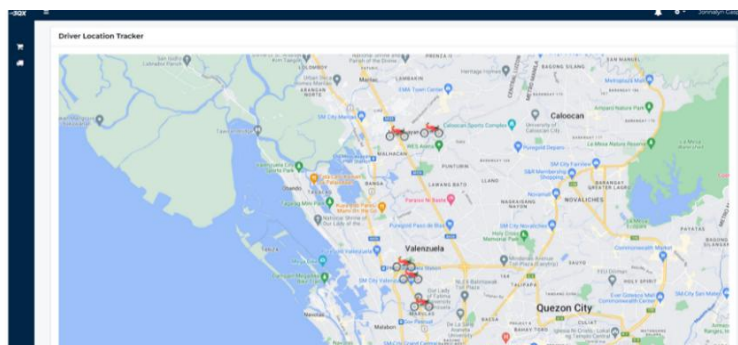
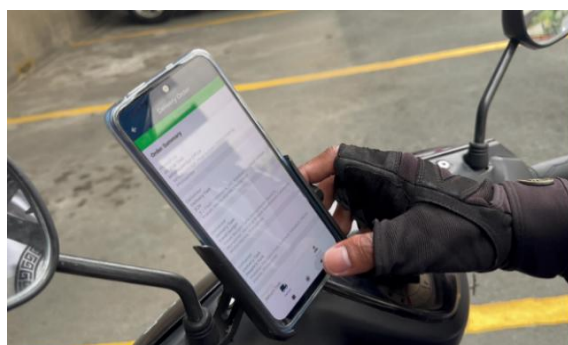
【ダイフク】



【LexxPlus】



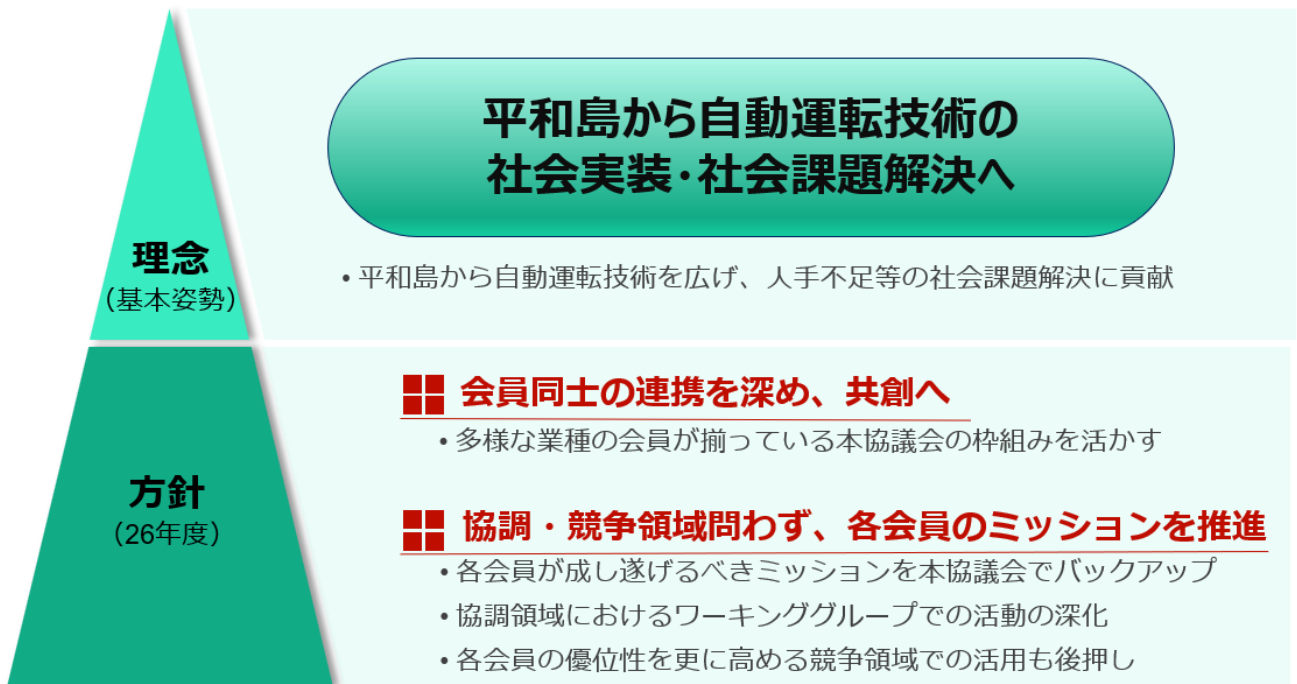
【大日本印刷】



※デジタル配送管理システム（左：配送ドライバーのスマートフォン画面 右：Web画面）

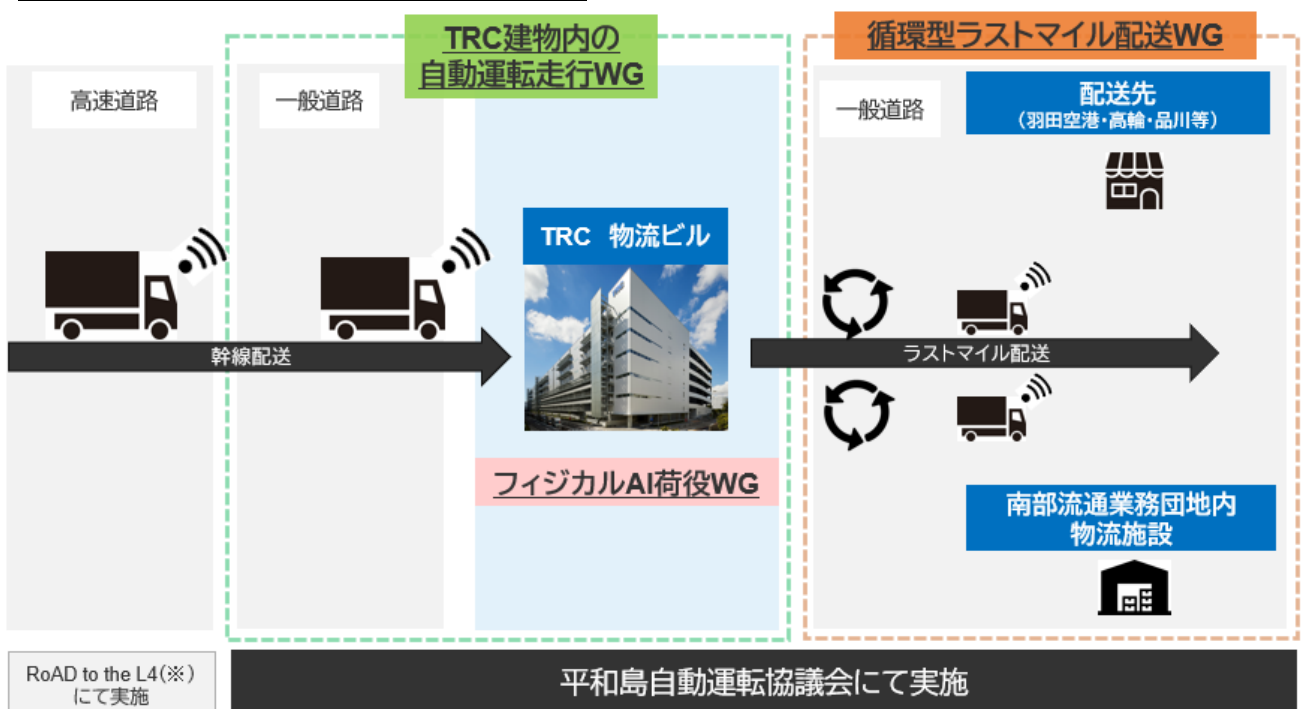
## ■今年度の本協議会方針

2025年5月22日に発足した本協議会は発足してからまだ1年程度ですが、多様な会員に参画いただき自動運転車両の社会実装やフィジカル AI との連携に向け、協調領域・競争領域問わず、確実に一歩ずつ進んでおります。今年度はネットワーキングから「共創」へと発展し、かつ各会員が果たすべき社会的ミッションを推進すべく、本協議会はバックアップしてまいります。



本協議会では、解決すべき社会課題が多い物流業界において自動運転車両と AI ロボティクスは相利共生の関係にあると考え、自動運転トラックと繋がる荷役や搬送までを一体的に自動化し、物流全体の高度化を目指します。2027年以降にはレベル4自動運転トラックの社会実装が予定されており、本協議会はこうした動きに合わせて荷役・一般道走行・ラストマイル配送等、現在有人車両が担う物流活動を自動化で実現すべく物流現場起点の技術検証を進め、引き続き会員皆様と連携しながら、「真の物流効率化」の為のエコシステムの構築を目指します。

## ■ワーキンググループ (WG) における取組みイメージ



(\*) Project on Research, Development, Demonstration and Deployment (RDD&D) of Automated Driving toward the Level 4 and its Enhanced Mobility Services.  
無人走行が可能な自動運転レベル4の社会実装を目指す国家プロジェクト

### TRC建物内の自動運転走行WG

・自動運転トラックの走行範囲を高速道路から一般道・物流施設内のパースまで拡大し、通信課題の解決や施設管制・パース管理システムの構築を通じて、シームレスな運行と事故防止を目指す。

### 循環型ラストマイル配送WG

・TRCを拠点に、羽田空港・高輪・品川等を結ぶ循環型配送ネットワーク構築に向け、技術・運用面の検討を開始。2027年度以降の自動運転車両の社会実装を視野に次世代物流モデルを創出する。

### フィジカルAI荷役WG

・荷役作業の自動化を目的に、フィジカルAIを活用した検証を実施。物流現場とフィジカルAI開発企業との連携を進め、自動運転車両との連動を視野に次世代物流モデルの構築を目指す。

#### ■株式会社日本経済研究所：JERI について（事務局）

JERI は日本政策投資銀行グループの一員として、地域創生に向けて地方公共団体・企業に対するプロジェクト支援・経営コンサルティングやナレッジ提供等に力を注いでいる会社です。本事務局を担当する産業調査企画部は、物流関連を含む国内外の産業調査等を行っています。

#### ■株式会社東京流通センターについて（施設運営）

大田区平和島の15万㎡の敷地に4棟の物流施設（総延床約12万坪）、2棟のオフィスビル、イベントホールの運営・管理を行っている不動産賃貸業の会社です。首都高速羽田線・湾岸線、環状七号線に囲まれ首都圏をターゲットにした物流のハブとして理想的な立地にあり、高度経済成長期における都心部の渋滞解消・社会課題解決を使命として1967年の設立以来、50年以上に亘り首都圏の物流を支えて参りました。都心立地でありながら物流適地に在るため、地方都市との幹線物流拠点として、また首都圏へのラストマイル配送拠点として、およそ100社に及ぶテナント様にご入居いただいております。

2024年問題に代表される物流課題へのアプローチとして、2020年10月より物流TECHを集積し、共同で物流課題を解決する「TRC LODGE」を運営しており、物流テックの展示を行う出展企業と、ご来場者間のビジネスマッチングによる物流業界の課題解決の場を提供しており、本協議会はこの枠組みの中での組織となります。 TRC LODGE 公式サイト：<https://www.trc-inc.co.jp/lodge/>

### 【物流ビルA棟（左側）と物流ビルB棟（右側）を核としたTRC航空写真と構内図】





本協議会会員は、TRC 所有地の私道、センタービル 916 のコミュニケーションルーム、A 棟 2 階の AE2-3 区画、約 8,000 坪ある A 棟屋上やその他構内広場を無償で利用することが可能となります。（一部事前申請要）

【A 棟屋上駐車場】



【A 棟中央車路】



【A 棟・B 棟の間の車路】



【第二展示場前広場】



※本協議会会員を募集しておりますので、ご興味ある企業様は下記問い合わせ先までご連絡ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社日本経済研究所 平和島自動運転協議会 事務局 メールアドレス： [head\\_light\\_field@jeri.co.jp](mailto:head_light_field@jeri.co.jp)